

子どもの世界を広げるのは親の役割ですが、そこから進みたい道を選択するのは子ども自身。子どもと言えども一個人として接しているのです、それぞれが好きな方向に進んでほしいですね。

あると思います。夫婦2人の子どもですからね。

子育ての方針も話し合っていて決めているのですが、人の気持ちに分かる子、あいさつや感謝の言葉が自然に出る子に育ってほしいです。

僕が信じる親の役割は、子どもが成長して外に出た時に、世間から逸脱しないように育てることと、子どもの決断を尊重し、それを見守り、サポートしていくことだと思っています。また、親が絶対ではないので、子どもにはやりたいことをさせてあげたいですね。

家事・育児はどうしても女性が主導権を握りがちですが、夫婦は共同生活をしているパートナーですから、お互い協力し合うべきだと思います。夫婦ともに「やってあげている」という気持ちではな

く、お互いにリスペクトし合うことが大切なんじゃないかな。尊敬の気持ちがないと喧嘩になってしまうと思います。仕事をして給料をもらってやることも、家で家事や子どもの世話をすることも当たり前じゃない。「ナイス!」「ありがとう」と声をかけ合うことで、お互い気分良く過ごせるし、家庭も円満だと思います。

重要なことは、夫婦で話し合う時間だと感じています。特に、「子ども」や「教育」などの話題は共通の関心事。時に聞き役に徹しながら、10分でも良いので、忙しくても妻と話す時間を確保するようにしています。夫婦で意見が合わなくても、とにかく話し合うことが大事。意見が割れると僕が折れることも多いのですが、夫婦は同じチームだ

し、わが家の司令塔は妻なので(笑)。家族が良い方向に進むのであれば、男の変なプライドは必要ないと思っています。夫婦の仲が良ければ、子どもは絶対にハッピーだし、それを嬉しく思わない子どもはいないですから。

「ピンクアンブレラ運動」について教えてください。

ピンクアンブレラ運動は、「なくそうよ、虐待。やめようよ、いじめ。子どもは宝。」をスローガンに、虐待やいじめの被害から子どもたちを守るカサになるう、という思いから始めた活動です。子どもへの虐待・いじめ問題について、多くの人に関心を持ってもらうための広報活動や、児童養護施設の子どもたちを試合に招待する活動などを行っています。

虐待やいじめは当事者だけの問題ではなく、周囲の人たちが支えたり、早めに気がついたりすることが重要だと思います。そのため、ピンクアンブレラ運動を通して、一人でも多くの人にこれらの問題について知ってもらい、関心



一般財団法人チャイルドワンを設立し、「ピンクアンブレラ運動」を展開中。
ホームページ：<http://www.child-one.org/>
※写真：「中村憲剛のイクメン対談」



を持ってもらうことで、子どもたちを様々な暴力から守りたい、との思いで取り組んでいます。

明確で即効性のある解決策がない問題ですし、僕自身も何ができるんだろうと悩むこともあります。しかし、この運動が問題提起のきっかけになり、いじめや虐待をやめようと思える人が一人でも増えてくれると信じて、今後もライフワークとして続けていきたいです。

